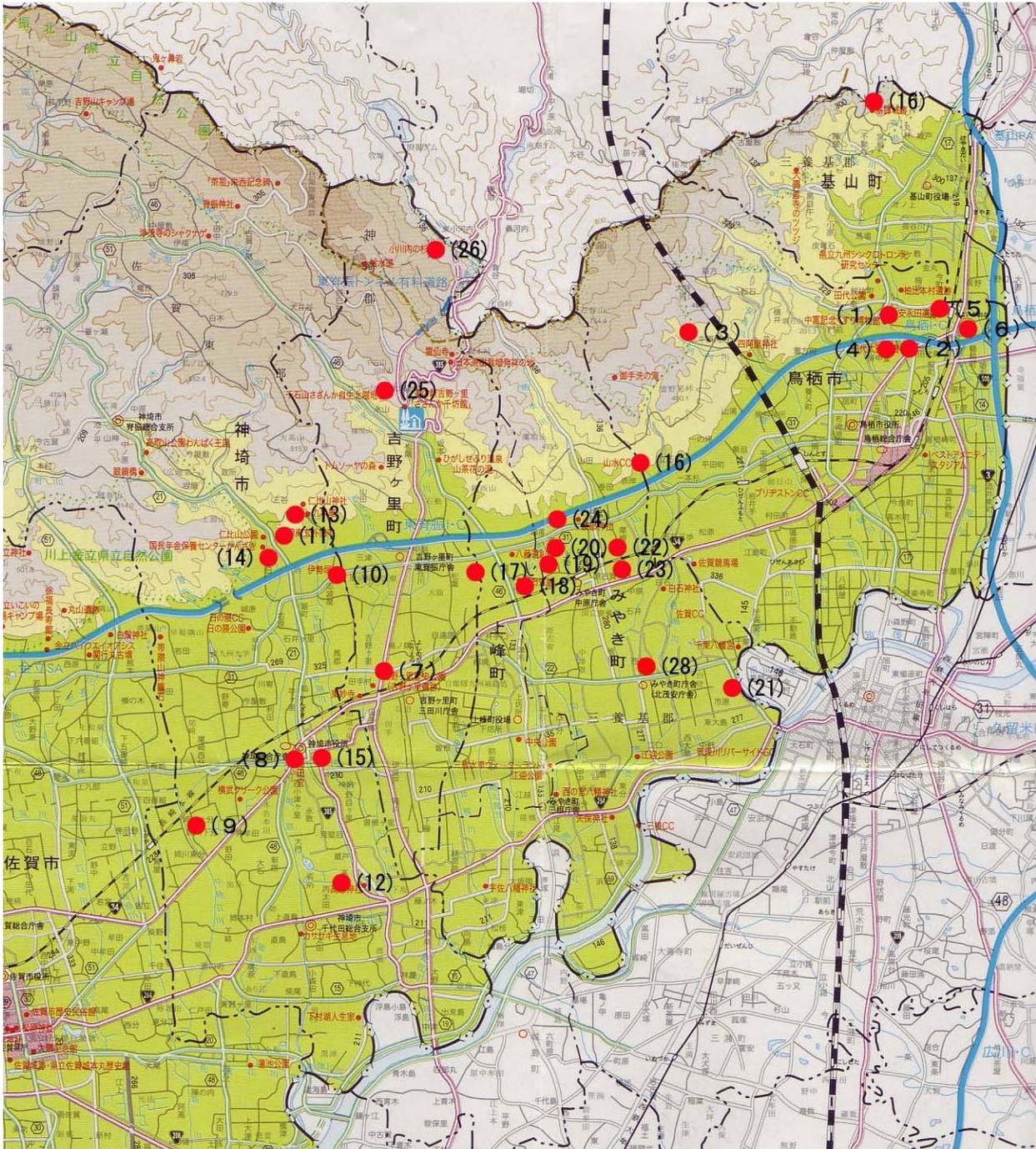


鳥栖市・神埼市・三養基郡（基山町・みやき町・上峰町）・神埼郡（吉野ヶ里町）の文化財散歩

国・県指定重要文化財(建造物)、史跡・天然記念物(動物を除く)、重要文化的景観、登録文化財



鳥栖市

史跡

(1)安永田遺跡



鳥栖市柚比字安永田

柚比丘陵上に立地する弥生時代中期を中心とする大規模な集落跡・墓地からなる遺跡で、昭和54年の鳥栖市教育委員会の調査で銅鐸鑄型片が出土し、従来の青銅器分布の定説に大きな影響を与える発見となった。さらに昭和55・56年の調査では、この遺跡が青銅器の鑄造を行っていた集落であることが確実となった。

佐賀県史跡

(4)剣塚



鳥栖市田代本町字柿添

柚比古墳群中最大の前方後円墳で、南側が一部削られているが、ほぼ原形を保っている。墳丘は二段築成で、全長83m。周囲を盾状周濠が巡る。墳丘上から葺石と円筒埴輪や盾形埴輪が発見されている。内部主体は未調査で不明であるが横穴式石室と思われる。6世紀中頃の築造と思われる。

神崎市・吉野ヶ里町

特別史跡

(7)吉野ヶ里遺跡



神崎市・吉野ヶ里町

弥生時代を中心とする大規模集落で、「魏志倭人伝」が伝える倭のクニグニの姿を思わせる。弥生時代前期には丘陵南部に環壕集落が形成され、中期には規模を拡大、後期には環壕内の南と北に内堀で囲まれた区画が作られる。約2500基の甕棺墓を主体とする墓地の中で、特に北内郭にある北墳丘墓(中期)で14基の甕棺墓から8本の銅剣などが発見された。

史跡

(2)田代太田古墳



鳥栖市田代本町

装飾壁画を持つ2段築成の円墳。現在直径約40m、高さ約6m。内部主体は後室・中室・前室の3室からなる横穴式石室。装飾壁画は後室奥壁と中室に赤・黒・緑の3色を用い、岩肌の黄色を利用して効果的に描かれる。図形は連続三角文・同心円文・蕨手文・花文の他、挙手人物像・騎馬人物像、船、楯、高坏などである。6世紀中～後半の築造と考えられる。

佐賀県史跡

(5)庚申堂塚



鳥栖市神辺町字庚申堂

柚比丘陵古墳群中の前方後円墳で、全長60m。二段築成である。葺石をもち、墳丘裾には周溝の跡と思われる窪地が一部認められる。過去に多くの円筒埴輪が出土したと伝える。内部主体は、後円部中央の横穴式石室で、玄室内は全面に赤色顔料が塗られている。6世紀後半の築造と考えられる。

神崎市

佐賀県重要文化財

(8)石造肥前鳥居 慶長七年の銘あり



神崎市神埼町神埼 榊田宮

榊田宮は、垂仁天皇あるいは景行天皇のころに創始されたと伝えられる。榊田宮の石造鳥居は、高さ3.35m、笠木の長さ4.45mである。笠木・島木。柱・および貫はいずれも3本継である。島木は形式化して笠木と一体となり、木鼻はゆるやかに反る。柱は、上部に台輪があり、下部になるにつれて次第に太くなる。慶長7年(1662)の造立銘を有している。

史跡

(3)勝尾城筑紫氏遺跡



鳥栖市牛原町・河内町・山浦町

城山とその山麓の谷筋を中心に広がる戦国大名筑紫氏の城館跡。筑紫氏は、明応年間(1492～1501)に入城したとされる。天正14年(1586)島津氏に攻められ落城し、翌15年豊臣秀吉により転封され廃城となる。勝尾城跡は城山山頂にあり石垣墨線や横堀が見られ、南山麓には瓦葺建物と庭園を伴う館跡がある。5つの支城に防備された谷部には城下町があった。

佐賀県史跡

(6)赤坂古墳



鳥栖市永吉町赤坂

前方後方墳である可能性が高い。推定復元長24m。葺石等の外部施設は認められないが、西から南側に周溝が確認できた。内部主体は不明。周溝内から出土した土師器の二重口縁壺、小型壺、器台等から古墳時代前期前半の4世紀に築造されたものと推定され、県内の最古級の古墳の一つである。

史跡

(9)姉川城跡



神崎市神埼町姉川

南北朝期に姉川氏が構えた城とされ、戦国末期までその居城となった。1570～80年代頃、龍造寺隆信が姉川氏を服属させた後は、龍造寺氏の神埼郡支配の要衝とされた。規模は東西最長600m、南北最長800m。中核となる姉川城本体が遺跡全体の東半域を占める。城の中心部は平面台形の曲輪で、内部に大型建物や門を備えていた。

神崎市

佐賀県史跡

(10)伊勢塚



神崎市神埼町志波屋

全長78.4mの前方後円墳で、墳丘全体に円筒埴輪がめぐらされ、後円部から人物埴輪も出土。前方部と後円部が県道により寸断される。後円部のほぼ中央に、県下でも最大級規模の横穴式石室がある。玄室の奥壁上部の両側に赤色の円文が描かれていたらしいが、現在肉眼では識別困難。築造時期は6世紀後半頃と考えられる。

名勝

(13)九年庵(旧伊丹氏別邸)庭園



神崎市神埼町の

通称「九年庵」は、明治期の実業家伊丹弥太郎の別邸で、庭園は久留米の作庭家阿(ぼとり)和尚が築庭した。寺院跡を利用し、上下二段に書院、茶室、池庭、平庭を配し、眼下に筑紫平野、有明海が眺望できる借景庭園でもある。建物は、庭園に先立ち明治25年に完成、数寄屋構造をとる。

基山町

特別史跡

(16)基肆(椽)城跡



三養基郡基山町小倉

白村江の戦いの後、665年に国内防備のため築かれた朝鮮式山城。基山と坊住山の2峰にまたがって築かれる。「日本書紀」に百濟の遣臣が築城を指揮したと記される。城域は総延長4.3kmにわたる土塁が尾根上を一周し、途中に門跡3カ所、水門跡1カ所、城内には建物跡40棟以上がある。南水門は、長さ26m、高さ約8mで、谷をふさぐ石塁下部に方形通水口がある。

佐賀県史跡

(11)伊東玄朴旧宅

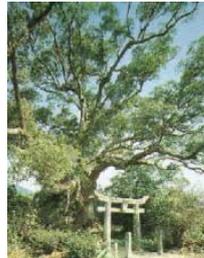


神崎市神埼町の

仁比山神社参道脇に所在する。伊東玄朴は幕末の医者・蘭学者で、長崎でシーボルトに学び、のち江戸に出て、種痘の創始、西洋医学所の創設など、日本の近代医学の基礎を確立した。旧宅は建坪は22坪、寄棟茅葺き家。玄朴は21才までの4年間ここに住み医業を開いた。現在の旧宅は文政4年(1821)20才の時建て替えたもの。

佐賀県天然記念物

(14)白角折神社の楠



神崎市神埼町城原字二本松 白角折神社

白角折神社の境内南側にある神木のクス。根部が地上2mまで隆起し、露出している根は互いに絡み合い癒着し、板状となっている。根回り29.3m、目通り幹回り10.5m、樹高22m。推定樹齢1000年。白角折神社は、平安時代の貞観15年(873)に従五位を授けられた県下でも古い神社の一つ。

上峰町

佐賀県史跡

(17)二塚山五本谷遺跡



三養基郡上峰町大字堤

昭和48年から53年の工業団地造成に伴う発掘調査で、弥生から奈良時代の墓地が確認された。確認された遺構は甕棺墓40基、土壇墓76基、箱式石棺墓4基、祭祀遺構3カ所、古墳時代の方形周溝墓3基、奈良時代の火葬墓2基がある。副葬品として清白鏡など銅鏡3面がある。この遺跡のうち墓域のほぼ中央にあたる地区が工業団地内の緑地として保存された。

佐賀県史跡

(12)高志神社遺跡



神崎市千代田町下板字村内籠

佐賀平野の平坦部に立地する弥生時代の集落で、弥生時代前期末～中期中頃の甕棺墓38基のほか、貝塚や、井戸跡などの集落の跡を確認。甕棺墓の内の1基からは、完全な形の細形銅剣と人骨に刺さった状態の銅剣の切先、石剣や石鏃、サメの歯で作ったやじりなどが出土した。

登録文化財

(15)福成歯科医院(旧古賀銀行神埼支店)



神崎市神埼町の

古賀銀行の神埼支店として、旧長崎街道に面して大正3年に建築された。古賀銀行解散後は、昭和8年から産科医院、昭和21年から歯科医院として使用されてきた。建物は、洋風外観の総二階建ての木造建造物で、大正時代の銀行支店建築の好例である。

佐賀県史跡

(18)船石遺跡



三養基郡上峰町大字堤

船石天神社周辺には、以前から船石・鼻血石・亀石と呼ばれる花崗岩の巨石や古墳が知られていた。昭和57年上峰町教育委員会による調査が行われ、弥生時代の堅穴住居跡6軒、弥生時代の支石墓2基、甕棺など墳墓93基以上、堅穴住居跡3軒、古墳3基が確認された。古墳のうち1基からは蛇行状鉄剣などが出土した。

上峰町

佐賀県史跡

(19)堤土壘跡



三養基郡上峰町大字堤字迎原

八藤丘陵と二塚山丘陵をふさぐように築かれた土壘。築成当時は両丘陵を東西につないでいたと思われるが、現在船石川により分断される。規模は全体で300m。東側で幅10～15m、高さ1～1.5m。西側で幅34～40m、高さ4～5m。堤体の築成には「版築技法」が用いられる。築造時期は、7～8世紀頃と推定。

佐賀県史跡

(22)姫方遺跡(雌塚、方形周溝墓、環状列土壘墓)



三養基郡みやき町大字養原

弥生から古墳時代の墳墓。この遺跡からは、弥生中期から後期の甕棺墓約400基・土壘墓8基、弥生後期から古墳初頭の箱式石棺墓32基、古墳2基・方形周溝墓1基などが発見され、このうち、雌塚・方形周溝墓・環状列土壘墓の3カ所が保存されている。

佐賀県天然記念物

(25)千石山サザンカ自生北限地帯



神埼郡吉野ヶ里町字九瀬谷

標高約200mの南斜面に、2.9haの純林を形成しており、根回り1m、高さ10mに及ぶサザンカの巨木が林立している自生北限地帯である。サザンカは、ツバキ科の常緑小高木で、九州・四国及び本州西端の暖地に自生する。10月から12月に紅・白の花をつけ、種子からはカチャンと呼ぶ油がとれる。

天然記念物

(20)八藤丘陵の阿蘇4火砕流堆積物及び埋没林



三養基郡上峰町大字堤字堤

阿蘇山の4回の大規模な火砕流のうち、約9万年前の阿蘇4火砕流はこの中で最も新しく規模が最大であった。平成5年2月、八藤丘陵の地下3mから焼け焦げた倒木群が確認された。倒木群の状況から、火砕流が来襲する前は巨木を含む大きな森林であったことが窺える。

佐賀県史跡

(23)姫方前方後円墳



三養基郡みやき町大字養原

中原中学校グラウンド脇に位置する。現存長34m、復元推定全長約40m程度。かつて東から西に幅約4mの周溝が残っていた。主体部は南東方向に開く横穴式石室であるが現在は埋没、6世紀代の古墳と推定できる。

佐賀県天然記念物

(26)小川内の杉



神埼郡吉野ヶ里町小川内 山祇神社

福岡県との県境に位置する山祇神社の境内に立つ。大小3株からなっており、根元でお互にくっつき合って癒着しており、その根回りは13.5mに及ぶ。樹高は39mと高く、3本の巨大な主幹が、そろって垂直に天をつくように伸びており、その姿は壮観であると同時に、極めて美しい。

みやき町

佐賀県史跡

(21)千栗土居



三養基郡みやき町大字白壁字三本松

千栗土居は、筑後川の治水を目的として成富兵庫茂安が築いた堤防である。平成2年度から10年度にかけて当時の北茂安町教育委員会が行った確認調査で、土居の築造技術が確認できた。千栗土居は、近世初期の堤防構築技術だけでなく、当時の土木技術を知る上でも重要な遺跡である。

佐賀県史跡

(24)高柳大塚



三養基郡みやき町大字原古賀字二本桜

開墾により前方部が削平され従来円墳と考えられていたが、平成3年度の発掘調査で前方後円墳であることが判明した。全長約28m、内部主体は南東のくびれ部方向に開口する横穴式石室である。6世紀後半～末の築造と推定される。

登録文化財

(27)天吹酒造



三養基郡みやき町大字東尾字東尾

江戸中期創業と伝えられる造酒屋。貯蔵庫、仕込蔵、居住棟、蔵人用炊事場煙突など酒造に関わる一連の施設が良好に残る。敷地内に酒造蔵に附属していたイギリス積煉瓦造の煙突も残る。

鳥栖市・神崎市・三養基
郡・神埼郡

天然記念物

(28)カササギ生息地



県内8市8町

カササギは佐賀県の県鳥であり、カチガラスの愛称で親しまれている。カラス科に属し、雑食性で、北半球全域に生息するが、日本では佐賀平野を中心に分布する。1月から6月が繁殖期で、4月から5月に